

国立大学法人和歌山大学と国土交通省近畿地方整備局との 連携・協力に関する協定を締結しました。

本協定に基づき、これまでの災害の情報や現場での実践力を有している近畿地方整備局と、災害データの収集及びその処理技術の開発を行っている和歌山大学が、それぞれの特性を相互に活用し合い、紀伊半島における地域の防災能力の向上に貢献していきます。

今年度は、和歌山大学と勉強会を3～4回開催し、各々の情報・意見交換を行います。

- ・ 日 時 平成 26 年 5 月 9 日 (金) 11:00～11:30
- ・ 場 所 大阪合同庁舎 1 号館 新館 3 階 A 会議室
- ・ 出席者 山本 健慈 和歌山大学学長
池内 幸司 国土交通省近畿地方整備局長 ほか関係者



協定書に署名



署名後 記念撮影



全参加者 記念撮影

※当日はマスコミ 12 社から取材がありました

協定の概要

背景 和歌山県(紀伊半島)における災害の懸念
(南海トラフ巨大地震、豪雨災害(土砂災害、洪水))

和歌山大学
・宇宙技術
・防災教育研究



近畿地方整備局
・大規模土砂災害や南海トラフ
巨大地震への災害対応

本協定の目的を達成するために、次の事項について連携・協力を行います。

- (1) 教育・研究及び地域社会への貢献に関すること
- (2) 社会資本整備・管理に関すること
- (3) 紀伊半島の防災に資する調査及び観測網の整備**
- (4) 災害発生時の情報収集と活用に関する技術開発**
- (5) その他、両者が必要と認める事項

災害発生やその予兆を検知、伝達するために必要な技術開発等について共同研究
(例) ・災害発生を検知するセンサの開発
・災害発生前後の状況を比較するためのデジタルアーカイブや観測網の整備
・これらの情報を伝達するためのシステムの開発

↓

紀伊半島等の地域における防災機能の向上に寄与